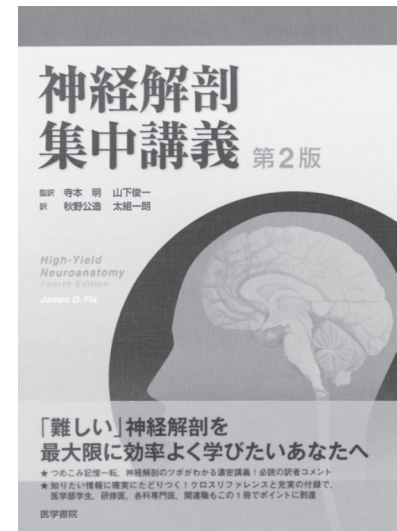


■ 書 評 ■

神経解剖集中講義 第2版

ジェームス D. フィックス ● 原著
寺本 明, 山下俊一 ● 監訳
秋野公造, 太組一朗 ● 訳

東京医科歯科大学大学院主任教授・脳神経病態学 水澤英洋



このたび、待望の『神経解剖学集中講義（第2版）』が出版された。本書は2007年5月15日の第1版第1刷から昨年までに3刷を数える、好評の名著の改訂版である。それは原著者のMarshall大学医学部解剖学のJames D. Fix名誉教授ならびに現Louisville大学解剖科学・神経生物学のJennifer K. Brueckner教授による原著の素晴らしさに加えて、監訳者である寺本明東京労災病院院長、山下俊一福島県立医科大学副学長、そして訳者である秋野公造参議院議員・長崎大学客員教授、太組一朗日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科講師の創意工夫によるところが大きい。

本書は、神経組織学、神経発生から始まり髄膜・脳室・脳脊髄液、血液を経て、脊髄、脳幹、視床、小脳、大脳基底核、大脳皮質と上向性に各章が配置されている。大きな特徴の1つは、単に解剖所見にとどまらず、必ず機能についても記述されていること、もう1つは、組織学の

章の中に中枢と末梢の腫瘍の項、発生の中に先天奇形の項、その他多くの「臨床との関連」の項などが準備され、随所に疾患や病態の記述が散りばめられていることである。脊髄、脳幹、大脳皮質の章の少し後で、それぞれ脊髄と脳幹の病変、失語症などが別立ての章となっていることでもわかる。すなわち、常に臨床を意識した構成になっており、これは読者にとって非常に理解しやすくなっている。

次の特徴としては、写真、図表、イラストなどが多用されていて、やはり理解を助けていることがあるが、恐らく最大の特徴は、そのコンパクトさにある。これだけの内容でありながら、その記述は正確で簡潔、また図などを多用することによりB5判で本文わずか185ページにまとめている。関連する特徴として欧文・和文索引を含む付録が62ページにもわたり極めて充実しており、本文と付録の合計でも247ページでまとまっている。付録の中に

は、用語解説、脳神経一覧、よくみられる神経疾患の病態、参照図のほか、わが国の読者を対象とした、コア・カリキュラム対応内容一覧、専門医のためのキーワードが訳者の努力により加えられていて、かゆいところに手が届く構成となっている。

このような、難しいとされがちな神経解剖を、極めて簡潔にして非常にわかりやすく解説した本書は、医学部の全学生、神経関連の大学院生、研修医などの脳神経外科や神経内科あるいは精神科を学ぶ初学者、さらには既に専門医となったものにも知識の整理などに極めて有用である。ぜひ、座右に揃えて日々の診療、学習あるいは研修に役立てていただきたい。

B5 頁264 2012年
定価3,780円
(本体3,600円＋税5%)
[ISBN978-4-260-01491-5]

医学書院刊